

病院名：南和広域医療企業団

(南奈良総合医療センター・吉野病院・五條病院)

医療圏：南和保健医療圏

地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について (地域医療構想調整会議資料)

① 地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

1 必要病床の確保

2025年には南和保健医療圏では、高度急性期病床が不足する一方、急性期病床・慢性期病床は過剰になると推計

① 高度急性期病床

高度急性期病床として、南奈良総合医療センターにHCU8床を整備。当面は奈良県立医科大学附属病院との連携により病床を確保する方針。

② 回復期病床

南奈良総合医療センターに回復期リハビリテーション病床36床、吉野病院に一般病床50床のうち地域包括ケア病床15床を整備。五條病院に一般病床45床のうち地域包括ケア病床14床を計画。

2 医療提供体制の確保

企業団発足により、地域医療構想で示された課題に対してすでに一定の成果が現れている状況。今後、その成果を評価しつつ以下の事項に取り組む。

① がん

南奈良総合医療センターが、平成29年4月に地域がん診療病院の指定を受けた。がん患者への治療から緩和ケア、リハビリテーション、在宅ターミナルケアまでチーム医療で取り組み、がん医療の質の向上を図る。

② 脳卒中

南奈良総合医療センターでは、脳卒中に対する手術による治療をはじめ血栓溶解療法(t-PA投与)の適用実績を有し、急性期を脱した患者の集中的なリハビリテーションを行う回復期リハビリテーション病床が稼働。また、吉野病院と五條病院が回復期・維持期を担うシームレスな医療提供体制を構築。ドクターへりの活用によりアクセスを確保。

③ 急性心筋梗塞

中南和医療連携区を設定し、ドクターへりの活用も進めて医療提供体制を確保。心筋梗塞における診断・治療、心臓リハビリテーションの実施、再発予防に取り組む。

④ 糖尿病

南奈良総合医療センターでは、診療科としては、糖尿病専門医を中心に血糖コントロールが困難な症例や合併症の進んだ症例の治療を行い、糖尿病センターではチーム医療として、糖尿病合

併症（腎症、網膜症、神經障害、心臓血管疾患、足病変、歯周病）のトータルケアを実施。

⑤ 救急医療

南奈良総合医療センターでは、救急センターをチーム医療として設置。

平成29年3月下旬のドクターヘリの運航開始により搬送時間の短縮による救命率の向上など、さらに救急医療機能の向上に取り組む。

⑥ 周産期医療

南奈良総合医療センターと県立医科大学附属病院が連携する医療連携区域が設定。南奈良総合医療センターでは産婦人科で妊産婦健診、小児科で新生児健診を実施する体制を確保し、分娩は県立医大附属病院で対応するという周産期医療体制を構築。また、診療情報をリアルタイムで共有する情報ネットワークシステムを構築。

⑦ 小児救急医療

南奈良総合医療センターでは、小児二次輪番病院（中南和）に参画し、中南和医療連携区域における小児救急患者の受入体制を確保、また、平日の午後5時から7時まで外来診療を行い、一次救急医療に取り組む。

3 在宅医療の取り組み方針

南奈良総合医療センターに在宅医療支援センター、吉野病院・五條病院に在宅医療支援室を置き、医師、看護師のほか、薬剤師、管理栄養士、理学療法士などのスタッフが連携し、地域のニーズに対応した訪問診療、訪問看護を実施。

南奈良総合医療センターでは、在宅療養後方支援病院として地域のかかりつけ医からの求めに応じて緊急時の入院を受入。

また、ICTを活用し、本院のカルテと連動したシステムを運用。

② 貴院が希望される、地域の病院間での役割分担について

(地域において貴院が担わない又は縮小する役割・機能ができるかぎり明らかになるようご説明ください)

構想区域内での医療需要充足割合を高めるため、南奈良総合医療センターにおける救急医療、がん、脳卒中、糖尿病などの専門診療の充実を推進

吉野病院及び五條病院における回復期・慢性期医療の充実、推進

企業団3病院における在宅医療の充実・推進

③ ②を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

○地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用、地域の医療従事者に対する研修の実施により、病病連携及び病診連携の強化を図る。

○回復期・慢性期医療について、企業団3病院と慢性期を担う病院との連携を図る。

○構想区域内の受療動向を踏まえて、五條病院における医療療養病床の追加運用の検討。

※行が足りない場合は適時、行を増やしてください。複数枚になっても結構です。